

令和7年度(2025年度)学校経営計画報告書

令和7年3月
八王子市立愛宕小学校
校長 荒谷 弘喜

中期的目標と方策 及び 今年度の具体的方策についての報告

(1) 豊かな心の育成【徳】

○生命尊重、人権尊重の精神の育成

- ・いじめ対策委員会を中心として児童の訴えやトラブルについて組織的に対応した。

保護者アンケートの肯定的な回答	85%
児童アンケートの肯定的な回答	89%

- ・校内委員会、登校支援担当を中心に不登校対応について組織的に対応した。

昨年度より年間30日以上欠席の児童が6名増加。

○全教育活動を通した心を育てる教育の推進

- ・「年間生活目標 進んであいさつをしよう」の共通実践として、代表委員会による挨拶運動を行った。また、各学級担任のはたらきかけにより、すすんで挨拶をする児童が増えてきた。

児童アンケートの肯定的な回答	86%
----------------	-----

- ・キャリアパスポートを活用するなどして自分の取組を振り返るなどの活動を行い、自己有用感の育成を図った。しかし、児童アンケートの肯定的な回答は56%にとどまった。

- ・「考え、議論する道徳」の充実を目指し、週案にも道徳の授業の目標や学習内容を記載し、計画的に道徳の授業を行った。また、道徳授業地区公開講座では「主として集団や社会との関わりに関すること」に内容を統一し、学年間で指導案を検討した上で授業を行った。

保護者アンケートの肯定的な回答	89%
-----------------	-----

○特別支援教育の充実

- ・校内委員会を核として配慮を要する児童の指導方針を共有し、教育センター、専門機関、特別支援教室等と連携して支援にあたった。

保護者アンケートの肯定的な回答	85%
-----------------	-----

- ・学校生活支援シート及び連携型個別指導計画を作成し、定期的に保護者と面談も行いながら活用した。

◆今後の課題と展望

- ・自己有用感についての児童アンケートの肯定的な回答が56%と低く、(学校目標としては90%以上)いかに児童の自己有用感を高める教育活動を計画・実施していくかが、来年度以降も課題である。

- ・道徳授業地区公開講座の保護者・地域を交えた意見交流会への参加者が非常に少なかった。事前に周知を図り、本校の道徳教育についての理解を得るとともに、保護者や地域の方々から幅広くご意見をいただく場としたい。

(2) 確かな学力の育成【知】

○知識・技能の確実な習得

・姿勢の保持を土台とした授業規律の確立、教室環境の整備、各種調査の分析を活かした授業改善について、年間通して取り組んだ。

・パワーアップ講習（補習教室）、パワーアップタイム、ドリルパークの活用などを通して基礎基本の定着を図った。

算数ベーシックドリル正答率60%未満の児童の割合	18%（学校目標20%未満）
算数ベーシックドリル・習得目標問題定着率	67%（学校目標100%）
はちおうじっ子ミニマム全問正答率【6年】	国語…83% 算数…78%

○思考力・判断力・表現力の育成

・校内研修を軸に、問題解決的な学習における各過程を大切に授業改善に取り組んだ。

保護者アンケート『学校は、授業において、説明、板書、話し合い活動、ICT機器の活用などの工夫に取り組んでいる。』についての肯定的な回答	93%
児童アンケート『学校は、授業において、説明、板書、話し合い活動、ICT機器の活用などの工夫に取り組んでいる。』についての肯定的な回答	84%
児童アンケート『自分の思いや考えを伝える力が付いてきていますか。』についての肯定的な回答	84%

・総合的な学習の時間を核として郷土学習の充実を図った。特に5年生は集団宿泊的行事で小田原市と交流を行い、小田原市の名産物である玉ねぎの収穫体験や現地小学校との交流会などを行うとともに、自分たちの住む八王子市の良さを伝えるなどの実践を行った。

○主体的に学習に取り組む態度の涵養

・児童の知的好奇心に火をつける授業をめざすとともに、教える授業から児童が自ら学ぶ、友達と学び合う授業への転換を図った。

・適正な評価に向けた指導と評価の一体化を行った。

保護者アンケート『学習活動に対する評価は適切・公正である。』についての肯定的な回答	88%
---	-----

◆今後の課題と展望

・今後も児童が意欲的かつ落ち着いて授業に取り組むことができるよう、全校で取り組んでいく。

保護者アンケート『子どもの学級では、授業や学校行事に意欲的に取り組むよう、指導が行われている。』についての肯定的な回答	95%
児童アンケート『先生たちは、落ち着いて学習できる学級づくりに取り組んでいますか。』についての肯定的な回答	86%

・校内研修では全職員がねらいやゴールイメージを共通理解した上で授業実践に取り組んでいく必要がある。

・算数ベーシックドリル正答率60%未満の児童の割合は昨年度59%→本年度18%と大きな向上が見られた。習得目標問題定着率についてもさらに向上を目指していく。

(3) 健やかな心身の育成【体】

○運動を通じた健康的な生活習慣の確立

・「体力向上推進計画」や体力テストの結果をもとに体育の授業改善を行うとともに、「マラソン週間」や「縄跳び週間」に全校で取り組むことで、児童の運動に親しもうとする意欲や体力の向上を図った。

児童アンケート『自分はよく運動をしていますか。』についての肯定的な回答	74%
児童アンケート『運動やスポーツは好きですか。』についての肯定的な回答	82%

・夏季休業中のラジオ体操では、早朝にもかかわらず100名を超える参加者がいた日もあり、児童も地域の方も積極的に取り組んでいた。また、放課後子ども教室が主催する朝の校庭開放にも多くの児童が参加し、外遊びする姿が見られた。

○社会の変化に応じた学校安全の推進

・不審者訓練、ピーポ君の家への駆け込み体験(2年生)など実施した。

○心身の健康の保持増進に関する指導の充実

・もったいない大作戦やお著名人、そら豆・とうもろこしの皮むき体験など、各学年における栄養士の食育指導を通して、児童の食への関心の向上を図った。

・エピペン研修や定期的な食物アレルギー対策委員会の実施を通して、安全な給食提供を行った。

◆今後の課題と展望

・休み時間の外遊びでは他校と比べても非常に環境に恵まれており、児童が自分の遊びたいもので自由に遊ぶことができる。積極的に外に出て児童と一緒に遊んでいる教員も多く、この状況を来年度以降も継続することで体力向上の一助としたい。

(4) 信頼される開かれた学校づくり

○小中一貫教育・保幼小等地域との連携の充実

・上柚木中学校グループ(上柚木小学校・愛宕小学校)の3校の教員で連携し、学力向上や生活指導、児童生徒交流の3グループに分かれて年3回情報交換を行った。また、その際会場校となる学校の授業参観を事前に行った。

保護者アンケート『上柚木中、上柚木小と合同で行う本校の取組を知っている。』についての肯定的な回答	89%
児童アンケート『先生たちは上柚木中、上柚木小と一緒にを行う取組に熱心に取り組んでいますか。』についての肯定的な回答	41%

・サマースクールを実施し、中学生のボランティアが小学校に来校し、学習支援を行った。

・地域発信で上柚木中学校での部活動体験の複数回実施した。対象を6年生だけに限定せず、4年生・5年生も参加した。

・「保幼小連携の日」の会場を初めての試みとして、小学校ではなく敬愛フレンド保育園で行った。また、保育園と連携して「八王子市保・幼・小の架け橋期のカリキュラム」を作成し、次年度に検証することとした。

○地域運営学校の強みを活かし、地域と協働した教育活動の一層の推進

・学校運営協議会では保護者アンケートや児童アンケートの結果をもとに本校に教育活動についての意見をいただき、学校の自己評価の参考とした。

・地域人材を講師やボランティアとして学校に招き、授業や課外活動を支援してもらった。また、クリーン上柚木やどんど焼き、防災ワークショップなどの地域のイベントに多くの児童が参加し、地域との交流を深めた。

○保護者や地域との連携によるきめ細やかな情報共有

・学校 HP で児童の学習や行事の様子、給食の献立について毎日更新し、情報を発信した。

保護者アンケート『学校は保護者に対して、学校だよりや HP 等で適切に情報を提供している。』についての肯定的な回答	97%
---	-----

・Home&School を積極的に活用し、学校だよりや学年だよりだけでなく、市教委からのお知らせや学年の連絡など、臨機応変に保護者に向けて情報を提供した。

◆今後の課題と展望

・来年度は上柚木中グループでより一層の連携を図り、義務教育9年間を見通した「キャリア教育全体計画」に基づき、社会的・職業的自立に向けて自己決定・自己実現ができる実践的態度の育成に取り組む。

・「八王子市保・幼・小の架け橋期のカリキュラム」に基づき、小学校の生活科の学習と保育園での取組を見合い、作成したカリキュラムについて検証する。

(5) 教職員の資質・能力の向上

○揃える指導で、全教職員で全児童を育む

・校内研究の中で「振り返り」に焦点を当て、低・中・高学年で系統的に項目を揃えて学習の振り返りを行った。いつも同じ方法を用いることで児童が行い方を理解し、自己の学びを認知しやすくなることのできた。

・定期的に OJT の時間を設定し、AI や外国語、熱中症対策など、幅広いテーマについて学び合う機会をつくった。

○法令を遵守、公務員としての自覚

・「週ごとの指導計画」に基づく教育課程の適正実施を図った。月ごとに学年間・専科との時数の確認や学習進捗の確認、校務システムでの学校長への報告を確実に行った。

・管理職による服務事故防止研修を定期的実施した。

○教育の質の向上を目指す働き方改革

・高学年で社会と理科の教科担任制を実施した。

・管理職による年2回の授業観察を実施し、各教員の授業改善を行った。

◆今後の課題と展望

・校務分掌の見直しや会議の精選、決裁の簡略化などを行い、全員が月時間外労働時間45時間を達成できるようにする。

・それぞれの教職員が「マイ・ノー残業デー」を設定し、定時退勤できる回数を増やしていく。